

信越化学工業株式会社

2021年3月期 決算説明電話会議要旨

日 時	2021年4月28日（水） 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業（株）
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	2021年3月期 決算短信

* このメモは電話会議でお話しした内容を要約したものです。

【決算概要説明（社長 齊藤恭彦）】

- 2021年3月期
連結売上高：14,969億円（前期比 3.0%減）、
営業利益：3,922億円（前期比 3.4%減）、
経常利益：4,051億円（前期比 3.1%減）、
純利益：2,937億円（前期比 6.5%減）
- 対前年で減益となったものの、経常利益を決算予想に対し4%持ち上げ4,000億円台を達成。
- 1株当たり純利益は707円、ROICは17.2%、ROEは10.7%。
- 年間配当金は上乘せして30円増配の、250円を予定。

[セグメント状況]

- 【塩ビ・化成品】塩ビ需要は引き続き強い。北米で1月から3月にかけて計14セントの値上げをし、さらに今月4セント、来月3セントの値上げを作業中。輸出の市価が北米の値段を上回るという状況が続いている。ソーダの市況も反転。
- 【シリコーン】昨年秋まで復調が遅れ気味であったが、ここへ来て需要は強く伸びており、3月は過去最高の月間売上を記録。
- 【機能性化学品】引き続き製剤用セルロースが堅調。自動車排ガス浄化用途が復調。
- 【半導体シリコン】300mmの需給は大変tight。200mmはbalanceからtightになった。
- 【電子・機能材料】レアアースマグネットは全用途で繁忙。露光材料は先端品を中心に全方位で順調。新規製品の開発と上市をこの機に加速。

- 昨年から4半期ごとに経常利益は、880、952、970、1,008、1,120億円と上昇。この軌道を維持すべく、取り組んでいく。
- 現時点で今後1年間の業績予想を合理的に行うことに難しさがあるため、連結業績予想は未定とした。今後、連結業績予想の開示が可能となった時点で、速やかに開示する。
- 引き続き従業員の健康と安全を維持し、次の収益の高みを目指して、業績の伸長を図る。

【補足説明（広報部長 足立幸仁）】

- 2022年3月期の設備投資は2,200億円、減価償却費は1,600億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1円の変動でUSドルは年間29億円、ユーロは年間2億円。

【質疑応答】

〈塩ビ・化成品〉

Q	塩ビの需給環境、今後の見通し
A	<p>(需給環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年夏から足元まで、需要の堅調さに加えて、供給の問題で一気に市況が締まり値段が高くなりました。 ・北米以外の地域は、需要が引き続き堅調なところと、インドのように感染が拡大して経済が滞りつつあるところも出てきて、濃淡が生じていますが、総じて需要は底堅いです。その中で、北米の供給が正常に戻りつつあります。海外の市況はピークアウトがあり得ますが、北米は需要が引き続き堅調に推移すると見ています。一つの理由は、根底に家不足があります。木材の価格が急騰していますが、住宅に多く使われていて、アメリカにおける住宅不足は結構深刻です。若い世代の世帯形成、コロナに起因するライフスタイルの変化など、いくつかの要素で需要が高まっています。北米において、需給はバランスし続けると見ています。 <p>(シンテックの収支と寒波の影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンテックの10-12月期（信越化学の1-3月期に連結）と、1-3月期の数字を定性的に言うと、10-12月期の利益は過去四半期として最高でしたが、1-3月はそれをさらに上回ります。寒波の影響を含んでも、値段が利益を押し上げ、そういう数字になっています。 <p>(市況の見方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで値段が上がり、能力増強が次から次へ出てくるかということ、そういう気配はありません。それに加え、中国におけるカーボンニュートラルの一環と

	<p>して、石炭系の化学産業の能力見直しがかかってくると、確かにここまで値段が上がったのは、天候による要素も一役買ったわけですが、そういう一過性の要素がなくなっても市況がある程度維持される。市場にシフトが起こったのかどうかはまさに今注視しています。もうシフトしました、ご安心くださいと申し上げられればそれにこしたことはないですが、そう思われる現象が起きていることは間違いのないと思います。</p>
Q	能力増強（第一期）の進捗、増産分の仕向け先について。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・今まさに仕上げの局面にあります。昨年はコロナ感染の拡がりやハリケーン、今年は寒波で影響を受けました。挽回して工事をやり切り、今年の半ばに完工して、スタートアップの作業に入ります。 ・増産分の仕向け先については、需要と受注価格の兼ね合いになります。北米の需要は堅調に推移すると見ているので、北米内での需要の充足に向けます。今は在庫が全くないので、在庫の積み増しという要素もあります。
Q	塩ビの供給動向、次の投資の考え方
A	<ul style="list-style-type: none"> ・中国がカーボンニュートラルの実現に向けて、カーバイドや石炭を主体とした化学産業をどうしていくか、注視しています。1-2年で顕著に表れるものではないと思いますが、じわじわと塩ビの市況にも効いてくると思います。 ・4-5月の値上げについては、間違いなく通ると思います。北米の需要はまだ強く、在庫もありません。内外の値段の逆転現象が続いていて、それを解消するためにも値上げが必要です。短信でもふれていますが、シンテックの更なる増強の検討を始めています。

〈シリコーン〉

Q	4Qの状況と、今後の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・化粧品向けを含めて全ての分野で復調し、数量を伸ばしています。同時に、価格是正も行っています。 ・お客さまのために作りこんでいる機能性製品はつぶしが効かないので、そのお客様の需要が落ちると当社の製品の需要も落ちるということが重なり、前期は回復が遅れました。 ・今は復調していて上手く回っています。世界的に景気が良いので、今の状況が続くとみています。

〈半導体シリコン〉

Q	1-3月期のウエハーマーケットについて
A	<p>(マーケット全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-3月期は、前年同期比、前四半期比ともに出荷数量は伸びました。例年は需要が停滞する時期ですが、今回は堅調でした。 <p>(300mm)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の4月より回復しており、前年同期比2ケタ以上伸長しました。前四半期比ではほぼ横ばいですが、全社でフル稼働が続いているため伸びが小さかったと見ています。 <p>(200mm)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の12月から急回復しています。自動車、産業、民生、通信、ゲームなどのほぼ全ての分野で回復しており、一部で在庫積み増しが続いています。 <p>(150mm以下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年以降落ち込んでいましたが、昨年11月頃より回復しています。全ウエハーメーカーとも、人的な能力においてフル稼働が続いていると見ています。
Q	1-3月期の利益について
A	<p>前四半期比で利益額があまり伸びなかったのは修繕費用に加え、償却費増、為替や販売ミックスの影響が主な理由です。なお、販売数量はプラスで推移しています。</p>
Q	4-6月期の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・1-3月に比べて全口径で需要が増えていくと見ていますが、能力律速のため、出荷量データはそれほど上がらないと思います。
Q	設備投資について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市場からの要求が強いのは300mmのエピウエハー（EPW）と、200mm全般です。200mmは新たな設備投資をする予定はなく、今の能力で対応していきます。 ・300mmのEPWは高原状態で、全ユーザーから2022-23年にかけての増量要請が相次いでいます。2021年と2022年は増量の余地がないので、2023年以降の話し合いとなっています。 ・メモリー向けウエハーの状況ははっきりしませんが、メモリーメーカーも将来のウエハーのタイト感を見越して、下期から増量の話が出てきています。このままいくと、2022年後半、遅くとも2023年からは単結晶、ポリッシュ加工、エピタキシャルなど全工程で能力不足が生じる可能性があります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・増強については、お客様と丁寧に話を進めています。新規投資のための大幅な値上げも一部で容認され始めています。 ・昨年は高品質化対応の投資がメインでした。2021年についても、同じような水準で推移するものと見ています。2023年にどれくらいの規模の能力が必要かによって、2022年の投資金額が変わってきます。
Q	お客様の在庫に対する考え方について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における経済活動の再開や米中摩擦などでモノ不足が表面化し、各サプライチェーンで在庫水準を上げる動きが活発になっています。半年後に需要が落ち着いたとしても、在庫水準を上げたままと見ています。
Q	価格について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・200mmは今年の価格は決まっていますが、次の2022年に向けての交渉は夏頃から始まります。 ・300mmは、2023年以降に全ての工程で増強が必要となり、大幅な投資額が見込まれます。ただし、増強幅や、先端品向け比率等により投資額が異なることから、どのくらいの値上げ幅が必要か具体的なことは申し上げられません。 ・価格で話題になるのはウエハーだけであり、価格が不釣り合いに取り上げられていると感じます。かつて、皆さんの懸念材料になるような事態にあったことは理解していますが、ここ数年来事情は変わってきていて、今は価格が契約でほぼ決まっています。仕様ごとに価格を変えていますし、契約期間や内容も違います。そういった要素をきめ細かく運営しているので、ご理解いただきたいと思います。レジストやCMPスラリーだけが先端デバイスを支えているのではなく、工程で使われる材料全てが同じ技術水準を要求されていて、それがきれいにそろわないと微細化や原子レベルのトランジスタの集積は実現できません。ウエハーの役割は極めて大きいと認識しています。

〈電子・機能材料〉

Q	3Q（10-12月）から4Q（1-3月）の業績について。
A	光ファイバー用プリフォームはまだ苦戦を強いられていますが、それ以外の製品群はすべて順調です。
Q	新年度にかけてのプリフォームの動き、新製品について
A	<p>（プリフォームについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供給過多の状況がまだ続いています。今後、インフラ投資の一環としてファイバーケーブルの設置が増えていくと期待されているので、需給がそれに伴い

	<p>整っていくと考えています。それが今期のどこから始まるかは、中国大手三社の発注にもよります。まもなく始まる入札の動向を注視しています。</p> <p>(新製品について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のデバイス作りで新しいパッケージングが一つのポイントになってきます。その分野で当社が開発しているものが、立ち上がっていく局面にあります。 ・EUV ブランクスについては、次回はやや新しいことを申し上げられれば良いと思っています。
--	---

〈全社〉

Q	今期の償却について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・今期の償却は 1,600 億円の見込みです。 ・機能性化学品事業、加工・商事・技術サービス事業を除き、各セグメントとも前期比で増加する見通しです。その中で大きく増えるセグメントは、塩ビ・化成品と半導体シリコンです。